

月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

エクトビあん

(EKUTEBIAN VOL.8 MAY 1991-EKUTEBIAN)

5



まい あーと ■油絵
「桔梗」 by 関田洋子

4000人が4000の走りっぷり。おんな
 じスタイルはナンドひとつもない。
 今年のランナー4000人、記録にチ
 ャレンジ、終始にこやかマイペー
 ス、ひとりて走る、みんなで走る……

姿が走る

——立川マラソン・表情アラカルト——

おなじみさんも、新人も「ならで
 は」の走りで年々に盛り上げて今
 年で10年。走りこたえ、見こたえ
 タップリに育った「立川マラソン」
 である。



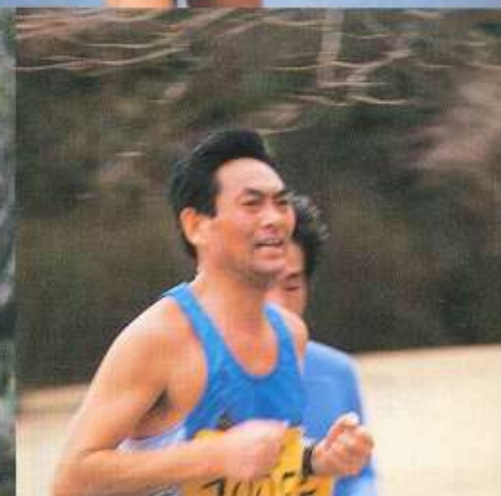
定破と年齢との関数は……



春うららかな、婦唱夫随かな？



手袋がタオル替りになったりして



人生、厳しいもんだよ、ウン



遠いなあ……



皆んなで走れば、こわくない



根ってんじやないんだかね



百メートル競走じゃないんだってば



嗚呼、痛くなってきた、官能かな



これが私の、正しい走り方デス

春の陽あびて、次々オープン



きのうと今日の顔が違って見える。奔流のような発展ぶりの立川の街。その勢いが生む活気にワクワクもするが、せわしない足どりをちよっとゆるめたい時もある。そんな心やすらぎを与えてくれる空間が今、街のあちこちに。春たけなわ、頃は良し、あなたも訪ねてみてはいかが？



◆「市制五十周年記念憩いの場」
立川駅北口、多摩信本店北側に3月31日、オープンした。道路をはさんで南が「彫刻広場」、北が「噴水広場」になっている。市章を形どった五角形の噴水と、それを囲む六段の階段から流れ落ちる水。お弁当を広げる近頃のOLたち、階段を上ったり下ったり水と戯れる子どもたち。行き交う車の騒音もいつか遠ざかるよう。

◆「若葉公園」(若葉町一丁目)
総面積5600平方メートル、市内の児童公園では一番目の広さ。広場、藤だなのある休憩所、遊歩道、

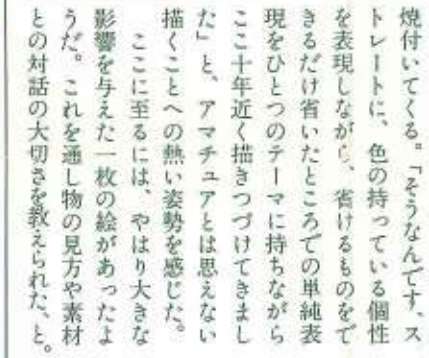


◆「立日橋」 3月15日、全面開通になった。近代的な橋の姿の美しさもさることながら、橋から見る多摩川の景色、ぐうんと心が伸びる。

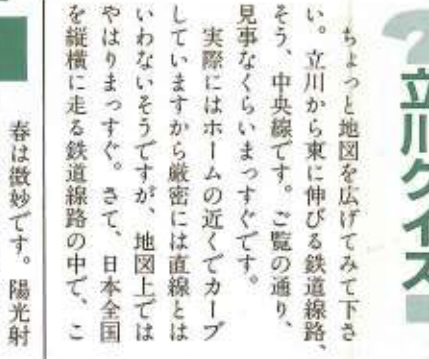
◆「ポケットパーク」(柴崎町6丁目)
多摩川と残堀川の出会う辺り、都の「武蔵野の路」足立・昭島ルートの中点にある。土手を上げれば目の前に広がる多摩川の流れ。北東側に新しく設けられた「残堀遊歩橋」とあわせ、ゆっくりに歩きたい道である。

◆「福祉会館」(柴崎町6丁目)
地域の福祉のよりどころ。高齢者の方やハンディを持った方たちなどの「いいの家」である。夏の開館目ざして改築工事中。

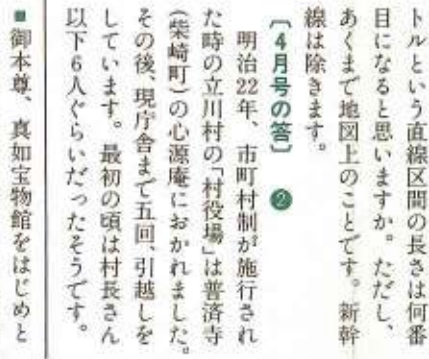
◆「歴史民俗資料館」(富士見町3丁目)
立川の現在を支える歴史の重み。静かな館内にたたずむと、そんなことがしみじみと思われてくる。現在増築中で、同じく夏頃オープンの予定である。



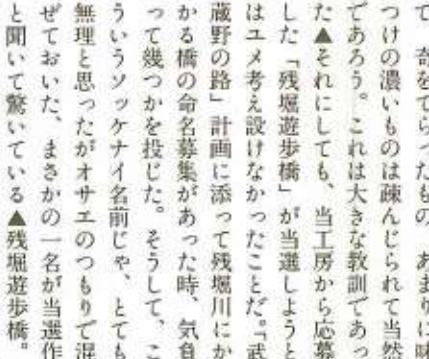
◆「若葉公園」(若葉町一丁目)
総面積5600平方メートル、市内の児童公園では一番目の広さ。広場、藤だなのある休憩所、遊歩道、



◆「若葉公園」(若葉町一丁目)
総面積5600平方メートル、市内の児童公園では一番目の広さ。広場、藤だなのある休憩所、遊歩道、



◆「若葉公園」(若葉町一丁目)
総面積5600平方メートル、市内の児童公園では一番目の広さ。広場、藤だなのある休憩所、遊歩道、



◆「若葉公園」(若葉町一丁目)
総面積5600平方メートル、市内の児童公園では一番目の広さ。広場、藤だなのある休憩所、遊歩道、

ことわざ問答

漢字一字挿入せよ

▼多く蔵すれば
▼必ずく失う

▼兔のわなにかかると
▼がががが

4月29日月

AM9:00~PM4:00

メトロポリス祭

会場 昭和記念公園
みんなの原っぱ
主催 青年会連所
詳しくは 27-1001

花が咲く。これは立川に残る小さなそして貴重な自然の中に、昔を伝えてくれる自生植物の花だ。五月も中半になると樹木も野草も追いつけきれないほどの早さで美しく変化し、人を含めていろんな動物たちを引き寄せる。この頃、玉川上水べりや多摩川の河岸段丘の小路を歩いていると甘い香りを放つ植物に出会う。スイカズラだ。つる性の植物で、花に蜜があり子供達が好んで吸うのでスイカズラの名があると言う。別名忍冬とも呼ばれて民間薬としても昔から用いられてきた。

玉川上水べりのエゴノキの花のトンネルも見事だ。エゴノキは昔砂川の山(平地林)にはたくさんあった。ナラやクスギと共に薪炭用に、また玩具や彫刻材などその用途は広く立派な資源植物である。金比羅橋からの眺めは格別すばらしい。諏訪の森、かつて本殿背後林で今もその名残を保つ自然木は、いく本もあるが、中央公民館東側に残るヤマボウシの花もぜひ

観察しておきたい。他の樹木にからみつくように立ち上り、その根張りの良さは古き年輪を伝え、枝先全体に上向きに咲く白い花は、季節ががいの雪化粧というところ。(鈴木 功)

◆「若葉公園」(若葉町一丁目)
総面積5600平方メートル、市内の児童公園では一番目の広さ。広場、藤だなのある休憩所、遊歩道、

◆「若葉公園」(若葉町一丁目)
総面積5600平方メートル、市内の児童公園では一番目の広さ。広場、藤だなのある休憩所、遊歩道、

表紙は語る

まい あーと 油絵
「橋」 by 岡田洋子

三月下旬ごろから、とりどりの花で包まれ始めた。通りを行き交う人達もカラカラな足取りと、カラフルなフアッシュョンを身にまとい、なにやら嬉しい顔付であります。空も同様です。白と「青」だけじゃありません。さて、今月の表紙をカラフルに染めてくれましたのは、東大に在住の岡田洋子さんです。この作品、昨年「二人展」と題し開かれた作品展でのもので、見てのとおりに鮮やかな色、形はとも目に焼けてくる。「そうなんです、ストリートに、色の持っている個性を表現しながら、省けるものをできるだけ省いたところの単純表現をひとつのテーマに持ちながら、ここ十年近く描きつづけてきました」と、アマチュアとは思えない描くことへの熱い姿勢を感じた。ここに至るには、やはり大きな影響を与えた一枚の絵があったようだ。これを通して物の見方や素材との対話の大切さを教わられた、と。

春光あびて 歴史散歩

私たちの街立川をもっとよく知ろうと立川教育振興会が「歴史散歩」を提唱。春光あびて、3月17日(日)

の午前中、立川市でも特に歴史や博物館に詳しい方々の指導で、なごやかなうちに有意義な「散歩」を楽しんだ方は51名。普濟寺、お諏訪さま、真如宝物館を参観。さらに山中坂の地蔵まで43名の尊い命を失った往時を偲び、合掌のあと常楽院、歴史民俗資料館を訪れ、昔味の薩摩団子などをふるまわれて、半日の歴史散歩を終えた。

立川・トビックス

大町市が 姉妹都市に

3月25日、立川市と長野県大町市が正式に姉妹都市になった。海外の姉妹都市としてはサンパナデイノ市ともう30年を越えるつきあいが、国内の市としてはこれが初めて。大町市とは毎年「ふるさと旅姿、塩の道、道中」を行う予定。

立川クイズ

ちよっと地図を広げてみて下さい。立川から東に伸びる鉄道線路、そう、中央線です。ご覧の通り、見事なくらいます。ご覧の通り、

明治22年、市町村制が施行された時の立川村の「村役場」は普濟寺(柴崎町)の心源庵におかれまして、その後、現庁舎まで五回、引越してきています。最初の頃は村長さん以下6人ぐらいだったそうです。

◆「4月号の答」
御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。
■立川市民(成人)に限らせて頂きます。
■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」(本誌)を手渡して頂く人へ。

真如苑だより

春は微妙です。陽光射す日の聖日が花冷えだったり、今年には三寒四温が大ゆれでした。

この日がどうぞ「五月晴れ」でありますように。そして、お揃いで真如苑へお出掛けください。

日時 5月15日(例)
午後2時~4時

立川クイズ

ちよっと地図を広げてみて下さい。立川から東に伸びる鉄道線路、そう、中央線です。ご覧の通り、見事なくらいます。ご覧の通り、

明治22年、市町村制が施行された時の立川村の「村役場」は普濟寺(柴崎町)の心源庵におかれまして、その後、現庁舎まで五回、引越してきています。最初の頃は村長さん以下6人ぐらいだったそうです。

◆「4月号の答」
御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。
■立川市民(成人)に限らせて頂きます。
■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」(本誌)を手渡して頂く人へ。

立川クイズ

ちよっと地図を広げてみて下さい。立川から東に伸びる鉄道線路、そう、中央線です。ご覧の通り、見事なくらいます。ご覧の通り、

明治22年、市町村制が施行された時の立川村の「村役場」は普濟寺(柴崎町)の心源庵におかれまして、その後、現庁舎まで五回、引越してきています。最初の頃は村長さん以下6人ぐらいだったそうです。

◆「4月号の答」
御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。
■立川市民(成人)に限らせて頂きます。
■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」(本誌)を手渡して頂く人へ。

東風

これも当工房は公共施設の名称を募集している、ない知恵を絞り合せて応募してきたものだ。皮きりは昭和記念公園のブルーであった。工房の黒板に候補名を大書して、40通も出したのだろうか。なにを隠そう結果は全滅であった。当選作「レインブルー」が発表になった時、私たちは「なーんだ」とがっかりした。こんななら小学生にだって付けられるじゃないか。私たちはもう少し洗練された、都会感覚を送ったつもりだとウソボレていた▲立川商工会議所の機関紙名を募集した時も試みたが全部落選した。当選作が「うもろう」と聞いて、この時も正直ガッカリした。当選作よりも自分たちの作品のほうが、ソフィスティケイションに富んでいたと思っていた。しかし、公共物の命名は長く人びとに愛用され、口ずさまれるもので、奇をてらったもの、あまりに味つけの濃いものは疎んじられて当然であろう。これは大きな教訓であった▲それにしても、当工房から応募した「残堀遊歩橋」が当選しようとはエメ考え設けなかったことだ。武蔵野の路」計画に添って残堀川にかかる橋の命名募集があった時、気負って幾つかを投じた。そうして、こういうソツケナイ名前じゃ、とても無理と思ったがオサエのつもりで混ぜておいた、まさか一名が当選作と聞いて驚いている▲残堀遊歩橋。多くの人びとが、なあと胸に思う気が私には、よく解る。▲えくてびあん 足跡ふめば 風かおる

立川発

カルチャートレイン

半日ほどの「小さな旅」へ出てみませんか。そこには思いがけなく自然が息づいていたり、懐かしい「この人」に会えたり。



上井草のいわさきちひろさん

武蔵野の面影を懐かしむ者が住む街に、子どもと大人のテーマとして描かれた風景は、あちこちの絵本美術館にある。二二匹、どおきささびるが「上井草」もまたそのひとつ。十二年前を辿り、もたらした作品をぜひ目にしたい。ふたつは、この町を歩くと、



このアトリエは、1970年頃の様子を再現したもの。



描かれた子どもたちは、生き生きとしている。



柔らかな外光が差し込む展示室には訪れる人が絶えない。